



9月22日 東地申第22号

「2021年度営業関係施策(その1)」

についての申し入れ【大森駅】を行う!

東京地本は「2021年度営業関係施策(その1)」について提案を受けました。今回の施策では、販売体制の見直しで出札窓口の閉鎖として大森駅・神田駅、販売時間の変更として浜松町駅、輸送体制の見直しとして尾久駅の4駅が提案されています。

大森駅は、多くの地域住民から愛されている駅であり、多くのお客さまにご利用を頂いている駅です。そのような駅の出札窓口を閉鎖することは、利便性・サービスの低下であり、JR東日本の信頼も失墜してしまうのではと危惧します。

生産年齢人口の減少、AI・IOTの発展などは理解します。しかし、全てのお客さまのご要望に対応が出来、全てのお客さまが安心してご利用出来るシステムや体制を構築してから施策を進めるべきであり、現在はそのように対応が出来ない状況だと認識しています。

これまでも、多くの駅において出札窓口の閉鎖が実施されてきています。出札窓口を閉鎖することにより、閉鎖された駅・近隣の駅ではお客さまから多くの意見をいただいています。大森駅もその一つであり、現場で働く組合員・社員は大変苦慮しながらお客さまへご理解をいただけるよう、丁寧に対応をしてきています。

出札窓口閉鎖によってお客さまサービスが十分に提供できない現実では、「仕事を通じた達成感・充足感・働きがい」を実感することはできません。ご利用いただいているお客さまと職場で働く組合員・社員の不安を解消するべく、以下の通り申し入れました。

～申し入れ事項～

1. 大森駅出札窓口を閉鎖する根拠を具体的に示すこと。
2. 大森駅出札窓口閉鎖前と閉鎖後における業務内容の変更点について明らかにすること。また、出札窓口閉鎖後もサービスレベルを維持・向上出来る根拠と具体的な対応を示すこと。
3. これまで 営業関係施策で実施してきた出札窓口の閉鎖により、お客さまから頂いている意見の内容を明らかにすること。また、お客さまからの意見に基づいて実施した対応について具体的に示すこと。
4. 踏切の異常時対応等について、これまでの通り迅速に対応出来る体制とすること。
5. 新たな作業ダイヤについては、現場で働く組合員・社員の意見を十分に反映し作成すること。

出札窓口閉鎖に伴い、お客さまだけではなく現場の社員の負担にもなる施策だ!

地本は、現場で働く仲間とお客さまのために、精力的に交渉に臨みます!